

# 軽井沢新聞

8月号 August 2017



編集局 Tel.0267-46-3001 Fax.0267-46-3880  
〒389-0111 長野県軽井沢町長倉 2380-27

身近な情報を編集局までお寄せ下さい ● E-mail info@karuizawa.co.jp  
広告に関するお問い合わせ ● 株式会社アドエイド Tel.0267-46-0055

軽井沢と深いつながりのある4氏が語る

## 軽井沢の未来への提言

建設事業中心のまちづくりから、現代の視点に合わせたソフトを加える共創型まちづくりを目指す一般社団法人国際文化都市整備機構(FIACS・鳩山友紀夫会)

長)が8月5日、友愛山荘セミナーハウスで講演会を開催した。同機構は広域東京圏の観点から軽井沢や甲府など複数拠点を連携させたまちづくりを推進している。



軽井沢友愛山荘で行われた講演会。中央は鳩山友紀夫さん。

挨拶に立った同機構理事長で元参議院議員の水野誠一さんは「軽井沢の文化の奥深さと力を感じるのは、大事な場所を守ろうとする憲章(要綱)があるから。それを守るために第一歩を踏み出そう」と意気込みを語った。この日は「軽井沢の未来と夢を語る」と題して井口典夫さん(青山学院大学教授)、泊三夫さん(博報堂顧問)、岡崎哲也さん



軽井沢ベルコモンズの創設当時を語る増田宗昭さん。

(松竹常務取締役)、増田宗昭さん(CCC代表取締役社長)の4氏が意見を述べた。井口さんは建築家でかつて軽井沢マスターアーキテクトを務めた園紀彦さんと練った「新軽井沢グランドデザイン私案」を発表。「駅北口から別荘エリアまで楽しく歩ける駅から「アート」「緑」「旧商業」等を軸とし、10項目の政策・方針を掲げた。

最後に増田さんはかつて旧軽井沢銀座の中心にあった「軽井沢ベルコモンズ」の立ち上げ当時の話から「ライフスタイルに関わるビジネスをしたい」と書店開業に至った経緯などを話し「軽井沢の森の中に本屋をつくりたい」と展望を語った。

続いて泊さんは「軽井沢を休めて自身の理解を深める軽井沢が必要」と述べた。3人目の岡崎さんは「エンターテイメントが繰り広げられた軽井沢だが、今は滞在する人々の構造と意識が変化している。これからは軽井沢憲章に基づいた文化的なエンターテイメントが、軽井沢を考察。「過去に華やかな時代産業」という視点で軽井沢を観点から軽井沢や甲府など複数拠点を連携させたまちづくりを推進している。

続いて泊さんは脳養地としての軽井沢を提言。「ストレステーション」の日本だからこそ、脳を休めて自身の理解を深める軽井沢が必要」と述べた。

3人目の岡崎さんは「エンターテイメントが繰り広げられた軽井沢だが、今は滞在する人々の構造と意識が変化している。これからは軽井沢憲章に基づいた文化的なエンターテイメントが、軽井沢を観点から軽井沢や甲府など複数拠点を連携させたまちづくりを推進している。

軽井沢が必要」と述べた。

軽井沢が必要」と述べた